

お知らせ

2012年1月1日から2016年12月31日までに当院でGISTの手術を受けられ、
術後イマチニブを使用している患者さんへ
課題名：我が国の GIST 治療におけるイマチニブ使用の実態に関する研究

1. 研究の対象

2012年から2013年の院内がん登録および2012年から2016年のDPCデータに登録された消化管間質腫瘍（Gastrointestinal stromal tumor; 以下GIST）患者の中から、イマチニブを使用した患者さんを対象とします。

2. 研究の意義と概要

GISTは比較的稀な腫瘍であり、確固たるエビデンスが確立している分野が限定されていることから、我が国の現状では、地域や施設ごとに方針のばらつきがあることが指摘されています。そのため、がん診療拠点病院を含めた各医療機関でのGISTに対する診療内容について検討する必要性が指摘されています。しかしその一方で、各患者さんに対する診療内容について把握することは困難であり、その診療実態はこれまで明らかにされてきませんでした。

院内がん登録は、全国の拠点病院のがん患者の情報が集積されており、腫瘍の部位・組織型・初回治療などが含まれています。そのため、GISTの診療実績のある施設での発生の実態の把握をすることが可能であり、またDPCデータは、患者の臨床情報に加え、行われた診療行為が時系列で網羅的に蓄積されていることから、診療プロセスの分析に有用なツールです。これらのデータを組み合わせることで、我が国でのGIST診療の実態を把握することが可能となり、本研究でGIST診療におけるイマチニブの使用実態を解析することは、今後のGIST腫瘍に対する医療の質の向上、均てん化につながると考えられます。

3. 研究の目的

本研究は、我が国におけるGIST診療におけるイマチニブの使用実態を把握することを目的とします。

4. 研究の方法

2012年～2013年の院内がん登録および2012年～2016年DPCデータを用いて、GISTと診断された患者さんのデータを抽出し、それぞれを突合せします。その後、診療行為コードから各種治療（イマチニブ、スニチニブ、手術）を抽出し、各医療機関におけるGISTの診療実態（イマチニブの完遂率、スニチニブへの変更率、術後補助療法の施行率など）を分析していきます。

5. 個人情報の保護

本研究に用いるデータは匿名化されており、個人情報は含まれておりません。厳重に管理はいたしますが、もし、研究対象に入っている可能性があり、除外を希望される患者さんがいらっしゃった場合には、下記にご連絡ください。データは常時施錠下に管理し、解析終了後は復元不可能な形で廃棄します。本研究に関する問い合わせや苦情などがあれば、いつでも下記窓口にご連絡ください。また今後本研究によるデータの二次利用の可能性もあります。

6. お問い合わせ先

病 院 名 : 川崎医科大学附属病院
病院所在地 : 〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
病院電話番号 : 086-462-1111 (内線26504)
研究責任者 : 川崎医科大学 臨床腫瘍学 講師 山村 真弘